

### ■インド： 州電力局、現状のままでは3年後に破産

2013年1月9日付の報道によると、クレディ・スイス銀行アナリストの分析として、赤字経営が続くインド全土の州電力局（SEB）は、電気料金を毎年10%値上げしても3年後には破産するという。破産を免れるには、タミルナドゥ州では26%、ラジャスタン州で23%、マディヤプラデシュ州で11%の値上げを3年間連続して行う必要があると指摘している。2012年には、タミルナドゥ州で7年ぶりに37%の値上げ、ラジャスタン州、マハラシュトラ州でもそれぞれ27%と28%の値上げが行われた。電力融資公社（PFC）によると、全国にあるSEBの赤字総額は2008年度の2兆4,796億ルピーから2010年度には2兆9,701億ルピー（約4兆7,500億円）と倍近くに膨れ上がった。これまで値上げが行われなかった背景として、規制委員会が政界と民衆の反発を恐れていることがある。